

水田酪農と飼料作物

水田地帯に於ける乳牛の餌はとかく稲藁偏重と、裏作飼料栽培を行つていても收穫時期が、春先きに偏り、年間の飼料給与が中々うまく行かないものです。これが水田酪農の悩みでもありましようが、この飼料給与の改善には次の飼料作りが必要です。

- ・ 水田の裏作と更に前後作を利用する飼料作り
- ・ 水田畦畔の草生改良
- ・ 田畑輪換による飼料作り

(一) 水田前作

裏作のできなかつた場所所春に湿気の少ない場所には稲の前作で飼料を一つすることが出来ます。春はなるべく早く次のような作物を播種します。

(A) 稲まで二〜三カ月の期間をみれる場合

- 青刈えん麦 七割
- イタリアンライグラス 一・五割
- ベツチ 二・三割
- 紫丸かぶ 〇・三割
- 又は豊産C・O 〇・五割

(B) 稲まで三〜四カ月(晩期稲)の期間をみれる場合

- 家畜ビート 一〜一・五割
- 又はルタバガ 〇・三割
- 裏作取種跡には
- デントコーン 六〜八割
- 青刈大豆 四〜五割
- カウピー 二〜三割

(二) 水田畦畔の草生改良

年中豊富な牧草を生産してくれる水田畦畔には春早くに苗床をつくつ



水田輪換畑の畦を越す程よく伸びたラデノクロバー主体の混播草

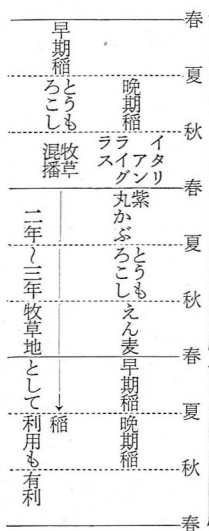


水田の飼料栽培

て、ラデノクロバー、ペレニアライグラス、オーチャードグラス、レッドトップを混播、苗を仕立て、二〇ポ位に伸びた時に畦草をていねいに刈取り、一五〜二〇ポ間隔に植穴を掘り、六〜七本宛移植しますと、夏からはドンドン刈取りができます。

(三) 田畑輪換での飼料作り

飼料生産力も高く、跡地稲作の増収も期待できる田畑輪換の飼料作りこそ米作を前進し、水田地帯に根を下した所謂日本型酪農を發展させる有利な道と言えましよう。輪換畑への牧草や青刈類のとり入れ方の一例を示しますと、



飼料作りの手引



○イタリアンライグラスの跡地耕起はこうして楽に

イタリアンライグラスは水田裏作として非常によく生育し、各地に栽培されていますが、跡地の耕起が今の農具では困難だと敬遠されるようなことがあつてはなりません。耕起が困難なほど沢山の有機質が水田に残り、地力の根源となることを思えば歓迎すべきです。しかし楽に耕起できるようにこしたことはありませんので、その方法を紹介します。

- 1 苧科作物との混播はイタリアンライグラス単播よりも楽に耕起ができます。
れんげ単播の耕起努力(耕耘機利用)を一〇〇としますと、イタリアンライグラス、れんげ混播は一三六、イタリアンライグラス単播は二二二という調査成績もあります。ベツチ類、豌豆の混播もよいでしょう。
- 2 刈取後殺草剤を撒布して根を枯らす。
これは跡作までの期間によつては、使用できないこともあります。(殺草剤の後作用によつて)
- 3 刈取後石灰窒素を施用し、根の腐敗分解等を促進します。
この場合は水田基肥の窒素を減量することは勿論論考えなければなりません。また刈取後石灰窒素等の窒素肥料を施すことは跡地米の減収を防ぐためにも効果的です。
- 4 多量の根の分解に伴ない有害ガス等の発生もありませんから、中乾し、あるいは排水、断水等努めて土中に空気を入れて被害をさけること。
消石灰を鋤込時に撒布して、分解を早め移植後の有害ガスの発生を避ける方法も行なわれています。